

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100668		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム ウェルスタイル朝倉		
所在地	群馬県前橋市朝倉町894-2		
自己評価作成日	令和2年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.pref.gunma.jp/cate_list/ct00005432.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に寄り添い自然体で過ごして頂き毎日楽しく過ごして頂けるように笑顔を決やさない。お一人お一人の個性を尊重しその人に合ったサービスを提供でき利用に努めています。中庭には菜園があり、利用者様と季節の花や野菜などを作り利用者様、職員と一緒に調理して食べ一緒に生活をしている実感をしていただいています。秋までは中庭で足湯を行い、外出できない時もいつもの日常と異なる雰囲気を作って利用者様に喜んでいただけるような工夫をしています。いくつかのボランティアの方に定期的に来ていただき、歌や踊りなど利用者様に楽しんでいただいています。認知症介護ロボとも導入し利用者により良いサービスを提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人と心を大切に」を法人の基本理念に掲げ、ホームで具体的に実現すべく、利用者一人ひとりに丁寧に気持ちを込めて働きかけたコミュニケーションを図ったり、対応についても事務的に捉えるのではなく、思いや意向の把握に努め、これらに沿った支援ができるように取り組んでいる。ホームにはコミュニティルームがあり、ボランティアの利用を起点に活用を広げ、地域の人々との交流場所にと考えている。また、介護計画については、利用者・家族の意向を反映させ、職員の意見等を聞き、実情に沿った介護計画を作成し、日々のケース記録には、計画の目標を明記し、目標に沿った記録を行い、毎月のモニタリングにつなげ、更には見直しに繋げ、一連の行為が連動し、共有のもと行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		hi	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に季節が感じられる空間で「人と心を大切にする」を実践しています。	「人と心を大切にする」という法人の理念を基本とし、運営方針等について、パンフレットなどで明確にするとともに、職員とのミーティングなどにおいて、具体的に話し合い、理解を深めながら実践に努めている。これらを基に、ホーム独自の理念づくりを検討している。	ホーム独自の理念づくりを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺のお店に出掛けている。機会があれば近隣のイベント等に参加をし交流を図っている。	近隣の散歩や買い物などを通して、地域の人々と挨拶を交わしたり、踊りなどのボランティアの受け入れなどにより、地域との交流を行っている。幼稚園等との交流も検討中である。また、ホームにはコミュニティルームがあり、ボランティアの利用を起点に活用を広げていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティルームの利用案内表示。定期的な活動の参加案内を告知していますまだまだ認知度が低いのでさらに工夫していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度運営推進会議を開催している。そこで出た意見を反映させている。例えば避難訓練に参加していただいて意見を聞いたりしている。	運営推進会議では利用者や運営状況、行事、事故・ヒヤリハットなどの報告を行い、出席者から意見や質問、感想を聞いている。台風に関しては避難方法や土壌確保などについて質問やアドバイスが出席者からあり、対策について検討したり、参考にしたりしている。	運営推進会議の構成メンバーについて、地域住民の代表が参加できるよう引き続き検討すると共に、議事録作成に当たっては、意見などより分かりやすく明記することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール等のやり取りのほか電話や訪問し直接質問し適時アドバイスもらっている。	日頃、事務手続きや内容などについて、分からないことや疑問がある時は、電話や出向いて、適宜アドバイス等を受けている。また、地域包括支援センターとも情報交換をし、連携を図りながら運営に当たっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し月1回の会議で現在の状況報告取り組みを共有3か月に一回勉強会を行っている。	身体的拘束検討委員会や毎月の全体会議において、身体拘束についての懸案事項や様々なことについて話し合い、職員の理解と共有のもと、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。現在、カテーテルを抜去してしまう利用者が1名いるが、やむを得ず拘束着用をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については法人全体で取り組んでおり身体拘束や虐待が起こらないように全職員に虐待防止に意識を持ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を申し立てていた利用者家族がいたので実践の中で学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご自宅に訪問し利用契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っている。利用開始にあたり不安疑問等をお聞きし理解していただいている。ご本人にも見学に来ていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の方からと利用者様から意見要望を伺っている。	利用者には日頃からできるだけ声かけし、思いや意向を聞き、汲み取るようにしている。家族に対しては、電話や面会時に、利用者の状況を説明し、意見や要望等を聞いている。面会時に飲み物を持ってきて利用者に飲ませてほしい家族がおり、希望に沿うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係に努め、提案等については実現できるように一緒に考えている。毎月の定例会議を意見を出し合う機会にしている。	毎月1回全体会議を開催し、職員から意見や要望、提案を聞くようにしている。職員から、厨房の作業台を増やしてほしい、内服薬の管理についての提案などがあり、運営に活かしている。また、管理者と適宜面接の機会を作り、働きやすい職場づくりをめざしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と定期的に面接の機会を作り、働きやすい職場にするために意見等を話し、聞いてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体で必要と思われる研修を実施している。外部研修にも積極的に参加できる機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加したときに交流を行いネットワーク作りを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から情報収集を行いより良い入居方法を考えている。ご本人ご家族が安心して入居していただけるよう努めている。ご本人の要望は必ずお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族としての困りごとをお聞きし、いつでも家族が来て大丈夫なことをお伝えしている。コミュニケーションを取ることで良好な関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握して事前に来て頂く党の必要な支援をしている。他のサービス事業所とも連携を図り入居が決まった時等行き来して情報を貰うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができることは協力して頂き、職員と一緒に出来ることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取り家族とのコミュニケーションが多く取れるような働きかけをしている。今後のケアの方向性を相談したり、生活を共に支えるパートナーとしての関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会時には居室でゆっくりと会話ができるような環境づくり等の配慮を行っている。	家族や友人などの面会が利用者の表情を明るくすることを経験・実感し、面会の必要性を認識して、できるだけオープンに支援している。また、居室づくりにおいても、枕や服など、利用者が使っていたものを多く持ち込み、馴染みの状況を維持できるよう家族にも働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人相性や事情を把握し生活をしていく上でのストレスを少しでも少しでも感じさせないような配慮をし、利用者様同士良い関係性維持出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から思いや希望を把握できるように積極的にコミュニケーションを取り定期会議にて話し合い支援している。	話しても分からないからではなく、話しかけたり、笑いかけたり、時にはボディータッチで、気持ちを込めて働きかけることが、コミュニケーションの基本と考え、接するようになっている。また、利用者との1対1となる機会を捉え、利用者の思いや意向を聞き、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、家族から情報を聞き取り入所後も本人、家族から聞き取り定期会議で職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りノートを活用し情報を共有している。特別な事項については出勤時申し送りを職員全員が把握できるように努めている。毎日のバイタル測定で体調の変化の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング時だけではなく普段の生活時でも本人や家族の意向を積極的にお聞きし変更が必要な事案があれば直ちに会議を行い満足していただける支援が出来るよう努めている。	利用者・家族の意向を反映させ、職員の意見等を聞き、実情に沿った介護計画を作成している。日々のケース記録に介護計画の目標を明記し、目標に沿った記録を行い、毎月のモニタリングにつなげ、更には見直しに繋げており、一連の行為が連動し、共有のもと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目標をケース記録に記入し実践できたかどうかを記入しその情報を職員間で共有し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能型居宅介護の利用者との合同レクリエーションやボランティアとの交流など柔軟な運営に努めている。また訪問介護と提携し医療面でのケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域ボランティアに来ていただき演奏会、ダンス等に参加して楽しんでいる。訪問美容や訪問歯科の利用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックの医師が主治医となり訪問診療を行っている。急変時はもちろん体調の変化がある時も相談できる関係性を築けている。	利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医とし、月に2回訪問診察を受け、歯科については必要時、往診依頼している。医師、薬剤師、ホーム間の連携をとり、一元的な薬の管理のもと適切な服用が行われている。また、訪問看護師が週に1回訪れ、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をし週1回来所し体調の確認を行っている。24時間体制で緊急時は夜間でも相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い退院前に本人に面会し家族と相談し主治医との連携を行い退院後の対応を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明している。その後重度化した場合や終末期についてはその時の状態に応じて本人、家族、主治医、看護師と連携を図り納得のいく終末期を過ごせるよう支援している。	「重度化に関する指針」を作成し、そのなかで看取り介護への対応の記述もあり、入居時に家族に説明し、実際に重度化した場合や終末期においては、家族・主治医などの関係者と十分協議し、看取りを含め、できるだけ家族の意向に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、急変時の対応が出来るよう基準などを作成し職員が同じ対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画、洪水避難計画を作成し年2回の避難訓練をしている。災害対策マニュアルを作成している。	年2回、うち1回は夜間想定を取り入れ、初期消火・通報・避難誘導の一連の訓練を実施している。消防署の立ち会いは実現していない。自然災害についての訓練は未実施であり、地域との協力体制についても、今後の課題となっている。	特に、自然災害について、地域の福祉施設との協力関係も視野に入れ、安全かつ確実な避難ができるよう取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方であることを忘れずに声掛けに配慮している。プライバシーに配慮した対応を常に心がけている。場面に応じた声掛け、話をしている。	声かけは、名字にさん付けを基本に考え、状況によって適宜工夫している。トイレ誘導の際には、あからさまな表現は避け、トイレや風呂場では、ドアを閉めたり、パーテーションやカーテンで仕切り、利用者のプライバシー空間確保を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、個人個人と必ずコミュニケーションを取るよう心がけご本人の話に耳を傾け自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いて散歩したりみんなで食べるおやつを一緒に買いに行き選んでいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に着替えの服を選んでもらっている。訪問美容なども利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる食事を心掛け季節のイベントに合わせて一緒に手作りおやつを作ったりする。	副食は業者から調達し温め、ご飯やみそ汁はホームで作っている。お粥や刻み食等の食事形態は職員が行い、また、検食を通じて評価を伝えている。バレンタインのチョコレートや草餅、ホットケーキづくりなど、季節に応じたおやつ作りを利用者と一緒に行い、食事を楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の食事形態を把握し食事量を記録しその方が食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行うように声掛けを実施している。義歯の洗浄も毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握しその方に合ったトイレ誘導、おむつ交換を心掛けている。出来る限りトイレにて排泄出来るよう自尊心も大切にしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握し、適時トイレ誘導し、トイレで排泄できるようにしたり、オムツ交換も適時に行えるようにしている。また、排泄内容・量についても分かるように区分して記録し、利用者の状態を職員全員で共有できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄チェック表を作成し排泄状況を把握している。水分補給や運動を促し、食事を十分に摂取できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴を行い気持ち良く入浴していただけるように心掛けている。入浴剤使用など楽しい入浴時間を過ごしていただけるよう工夫している。	週2回、午前中を基本に入浴できるようにし、檜風呂や介護浴槽にゆったりと入浴していただいている。足湯も用意されている。個々に合った温度調節をしたり、季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を用い、ゆっくり入浴を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に合わせて休んでいただいている。寝具や室温など快適に眠れるように環境整備に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し効能、副作用について確認できる体制を整えている。嚥下状態が悪く服薬しづらい方には薬剤師の助言ををもらい飲みやすいように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得な分野を探して楽しみながら生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は中庭で水撒きをして季節を感じていただき、散歩に出掛けたり、季節に合わせて外出行事を企画している。	天気の良い時は、中庭で野菜の世話や収穫をしたり、付近の散歩やおやつの買い出しなどをしたりしている。また、初詣や花見など、季節に応じた外出行事を企画して、実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出先でお金を使えるようにご家族から小口金をお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば家族、友人への手紙は職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には一緒に作成した季節感のある壁紙を毎月貼り、トイレ、風呂は分かりやすい表示をし混乱せず生活できる工夫をしている。	居間兼食堂や廊下などの共用部分には、七夕飾りなど、職員と手作りの季節を反映したものが飾られ、生活感とともに、季節感を利用者が味わえるようにしている。また、風呂やトイレのドアは、色別され文字とイラストで表現され、利用者が分かりやすいように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を工夫してソファでは気の合った利用者同士で会話が弾む工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時自宅で使用していたものを1つは持ってきていただけるようお願いしている。またそれが目に留まったり、すぐ手に取れるようにレイアウト等も工夫している。	居室入口には、利用者の名前とともに、一人ひとり異なった花の絵が描かれ、分かりやすいようにしている。利用者が入居前に生活していた環境にできるだけ近づけるよう、タンスなどをはじめ、枕や洋服など、利用者の馴染みのものを持ち込むように家族に働きかけ、工夫された空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう家具の配置や個人の押し車の置き場所にも配慮している。歯磨きセットや洗剤などの置き場も検討し安全な環境づくりに心掛けている。		